

第1分科会

授業目的に応じた学びの時空間の選択

~深い学びをはぐくむ反転授業

分科会概要：

コロナ禍における強制的なオンライン授業への移行は、学生や教員に多くの苦勞を強い
るものであったが、一方でこれまでいわば「食わず嫌い」であったかもしれなかった「授業
における ICT 活用」の可能性を多く教員が「体感」したという側面もあった。

ICT を活用した授業の形態の一つに反転授業がある。反転授業とは、知識の獲得を授業外
で行い、知識の応用や活用、定着を授業内で行う授業形態で、わが国では 2012 年頃から実
践が見られるようになった。実践が広がる一方、「反転授業を手探りでやってみたものの効
果が今一つ感じられない」「反転授業という言葉聞いたことはあるし興味もあるけれど何
から始めたらいいのかわからない」といった声もきかれるようになった。

本分科会では、これまでに反転授業を実践されてきた先生方、あるいは、オンライン授業
で作成したコンテンツの有効活用の一つとして新たに反転授業を試みようとしている先
生方に、「転ばぬ先の杖」としてのノウハウや知見を得ていただくことを目的とする。

まずは反転授業とはなにかといった概念整理をしたのちに、これまで反転授業を実践さ
れてきたお二人の先駆者から、実践の際にポイントとなる視点を具体例とともにお話いた
だき、多くの教員が新しい手段を手にいれた時代において、深い学びをはぐくむ一つの手法
としての反転授業について、参加者の皆さまと考えてみたい。

<プログラム>

10:00 趣旨説明 田口 真奈 氏 京都大学高等教育研究開発推進センター・准教授

10:05 講演 1. 反転授業とはなにか～概念整理と授業設計時のポイント

澁川 幸加 氏 京都大学教育学研究科博士後期課程 2 回生

/日本学術振興会特別研究員 (DC2)

10:30 講演 2. With/After コロナ時代の言語教育 (日本語教育)

～対面/オンライン環境下における反転授業実践

古川 智樹 氏 関西大学国際部・准教授

10:55 講演 3. With/After コロナ時代の工学教育における反転授業のススメ

埜 雅典 氏 山梨大学大学院総合研究部工学域・教授

11:30 質疑応答

第2分科会

開かれた教室、開かれた大学へ向けて ～メディア授業の可能性について考える～

分科会概要：

メディア授業は通学制の学部においては卒業要件のうち60単位まで、大学院においては30単位 全てまで認められている。コロナ禍での緊急対応として2020年度前期から多くの大学でメディア授業の運営に取り組むことになった。リアルタイムやオンデマンドによる授業運営を試行錯誤のなかで経験したものの、その多くは対面授業の置き換えの域を出るものではないと言えるだろう。社会と教室の連携、オンデマンド授業とライブ授業の組み合わせ、CBE(コンピテンシー・ベースド・エデュケーション)の提案、メディア授業の研究や多様な実践の先駆者である登壇者から発せられるメディア授業の持つ本質的な可能性から明日の学びの場について考えたい。

<プログラム>

- 14:00 趣旨説明 京都精華大学 デザイン学部 教授 岸川 謙介 氏
- 14:10 講演 1. 「オンデマンド、オンラインライブ、対面の組み合わせで授業を拡張する」
早稲田大学 人間科学学術院 教授 向後 千春 氏
- 15:00 講演 2. 「オンデマンド授業で学びの場所と時間からの開放をめざす」
京都精華大学 国際マンガ研究センター 教授 菅谷 充 氏
- 15:50 講演 3. 「社会に開かれた学びの場を創る
—オンライン授業と対面授業をつらぬくエッセンス—」
筒井ラーニング Lab 合同会社 代表/京都工芸繊維大学 非常勤講師
筒井 洋一 氏
- 16:30 休憩
- 16:40 質疑応答

第3分科会

(大学で) 学ぶとは? 教えるとは?

そして、良い授業とは?

分科会概要:

近年、「従来の受動的な座学から主体的なアクティブラーニングへ」等々、いわゆる大学での「授業、講義、実習、演習、個人指導…」と称される《(相互) 行為》が大きく変化し始めている。また、今年度は、見えないウィルスとの対峙といった未曾有の状況下で、「教室、講義室、実習室、演習室、研究室、大学の外、オンライン上…」のさまざまな《現場》で、改めて「(大学の) 教育 (の本質) とは?」が、自分たち自身の問題として立ち現れることとなった。この分科会では、報告者各自が、(大学) 教育の過去・現在・未来について、2020年の今現在、最も関心あることを発表し、参加者と共に考えていくことを試みる。

<プログラム>

14:00 ~14:10 趣旨説明 京都先端科学大学 関口 久雄 准教授

14:10 ~14:30 報告1 青山学院大学 小針 誠 教授

14:30 ~14:50 報告2 同志社女子大学 天野 太郎 教授

14:50 ~15:10 報告3 京都先端科学大学 池田 恭浩 准教授

15:10 ~15:30 報告4 京都先端科学大学 関口 久雄 准教授

15:30 ~15:40 休憩 (10 分間)

15:40 ~17:00 参加者と共に考える

第4分科会

これからの大学と大学教職員に求められる課題

分科会概要：

アフターコロナ、ウィズコロナの社会では、従来とは異なる観点から、よりよい働き方、よりよい暮らし方、よりよい経済・社会のあり方が求められるようになってきている。それに対して大学はどのように応えていくのだろうか。本分科会では、ウェルビーイングとアカデミック・コミュニケーションという2つのキーワードを提示する。

分科会ではまず、飯塚まり先生に、これからの社会に求められるウェルビーイングと、ご自身が実践される授業についてお話しいただく。ウェルビーイングは「幸福や健康」を指すが、個人だけではなく組織や社会の視点も含む概念である。

次いで、谷本寛治先生に、アカデミック・コミュニケーションの観点から、よりよい大学教育のあり方についてお話しいただく。アカデミック・コミュニケーションは研究者育成という観点だけではなく、あらゆる大学人に向けたリテラシーである。

最後に、両者のお話を踏まえて、今後のよりよい大学教育のあり方について議論する。

<プログラム>

10:00 趣旨説明 京都産業大学経営学部 在間 敬子 教授

10:05 講演 1. 同志社大学大学院 ビジネス研究科 飯塚 まり 教授
「これからの大学とウェルビーイング（個人、組織、社会、地球）」

10:45 講演 2. 早稲田大学 商学学院商学部 谷本 寛治 教授
「これからの大学・研究者とアカデミック・コミュニケーション」

11:25 質疑応答 講演者とフロアから

11:55 まとめ

第5分科会

これからの時代の実地教育の在り方を考える

分科会概要：

これまで、各大学において、社会人として必要な能力を有する人材育成を行うため、有効な手段としてインターンシップ（実地教育）の推進が行われてきた。しかし、コロナ禍によってその実施が非常に困難になっている。そんな中、教員養成を目指す大学や関係機関では教育実習も含め教員志望者が学校現場で学ぶ機会をつくろうとする様々な取組が模索されている。ウィズコロナの時代に、その趣旨を生かしながら、どのように実現していくのか、考え方や有効な実施方法などについて学び合う機会とする。

教育に関わる実地教育、特に教育実習は学校現場で児童生徒と直接かかわり、教員の指導の在り方や学校運営を直接体験的に学ぶことにより実践的指導力を培う実効的な学びになる。事前指導や事後指導の授業についてはオンラインと対面によるハイブリッド授業となることも可能であるが、実地教育（学校ボランティアを含む）や教育実習など学校現場での学びに相当する教育効果をオンライン授業や大学の演習授業で代替することは難しい。

コロナ禍によって学校現場も多様に変化している。その変化を受け止め、可能な限り学校現場で児童生徒や教職員とかかわり、学校教育について学び、これからの時代の教員としての資質・能力を高めるために、必要な学びの場や内容の保障をいかに確保、設定し、状況の変化に対応する教育を展開できるのかについて交流する。

<プログラム>

- | | | | | | |
|-------|-------|--------|------------|-----|---------|
| 14:00 | 趣旨説明 | 京都文教大学 | 子ども教育学部 | 教授 | 橋本 京子 氏 |
| 14:10 | 講演 1. | 京都文教大学 | 子ども教育学部 | 准教授 | 橋本 祥夫 氏 |
| 14:45 | 講演 2. | 同志社大学 | 免許資格課程センター | 教授 | 児玉 祥一 氏 |
| 15:20 | 講演 3. | 神奈川大学 | 特別招聘教授 | | 安彦 忠彦 氏 |
| 15:50 | 休憩 | | | | |
| 16:00 | 質疑応答 | | | | |

第6分科会

with/after コロナ時代の教育開発支援

分科会概要：

2020年度は多くの大学が「新型コロナウイルス感染症」対策に迫られた。前期は対面授業を遠隔授業に切り替え、後期は対面と遠隔を併用しながら授業を展開している。遠隔授業をほとんど経験したことのない教職員の苦労と努力もさることながら、遠隔授業づくりを支援する教育開発支援担当者や情報メディア部門担当者は、この未曾有の事態の対応に尽力してきた。本分科会では支援者側に焦点をあて、この1年どのような問題に直面し、どのように解決してきたか、そしてコロナ禍が収まらない中これからの大学教育をどのように展望するかについて、規模や状況の異なる4つの大学の事例と現場担当者の考え、そして参加者間での議論をもとに検討したい。

<プログラム>

14:00 本分科会開会挨拶と企画の説明

(京都外国語大学 外国語学部 英米語学科 准教授 畑田 彩 氏)

14:10 報告1 「コロナ下における教育開発支援センターの挑戦」

(関西大学 教育推進部 准教授 岩崎 千晶 氏)

14:35 報告2 「大学情報センターとしての取組事例」

(徳島大学 情報センター 教授 松浦 健二 氏)

15:00 小休憩

15:05 報告3 「中規模私立大学の教育開発支援センターの取組事例」

(京都橘大学 現代ビジネス学部 経営学科 専任講師 西野 毅朗 氏)

15:30 報告4 「教育支援の教員組織を持たない大学の試み」

(京都外国語大学 外国語学部 英米語学科 教授 石川 保茂 氏)

(京都外国語大学 法人部 施設管財課 情報システム推進担当 主幹 中原 学 氏)

15:55 小休憩

16:00 小グループディスカッション「参加者同士の事例や状況等の共有」

16:20 パネルディスカッション「質問に対する報告者からの応答と主題の議論」

16:55 本分科会閉会挨拶

(京都外国語大学 外国語学部 英米語学科 准教授 畑田 彩 氏)

17:00 終了

第7分科会

モチベーションクライシスと向き合う

分科会概要：

モチベーションクライシスと向き合うことの必要についてです。

2014年度FDフォーラムにおいて、同一テーマで分科会を実施しましたが、今回内容を更新しもう一度皆様とご一緒に課題に向き合いたいと思います。

近年は入学後にすぐに登校しないケースや途中の学年で退学していく学生も少なくない状況も見受けられます。学生たちの大学入学動機とともに大学で学ぶことの意欲低下の検証が必要であると考えます。多くの大学ではこれら学生の抱える悩みや不安などに対応するためにさまざまな支援策が実施されていると思いますが、その策がどこまで効果を発揮しているのか、多くの大学が事例を持ち寄り確かめあう必要があります。

例えば、学生相談に対する取り組みと課題、修学支援としての取り組みと課題、学習支援のための取り組みと課題、ピアサポートによる取り組みと課題などが考えられますが、モチベーションクライシスに向き合い、学生たちを支援していく場合には、学生の保護者や関係機関団体との連携も必要になっていくのではないのでしょうか。今回は、大学全体としての取り組みの必要、教員間での連携と協働で行う連携支援の必要など、様々な角度から考えていきたいと思います。

モチベーションクライシス=大学生の学習に対する意識の危機的な低下とする

<プログラム>

趣旨説明 三好 明夫 氏 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 教授

報告 1. 眞砂 照美 氏 佛教大学 社会福祉学部 教授

報告 2. 永野 典詞 氏 九州ルーテル学院大学 人文学部 教授

報告 3. 小原 教孝 氏 学校法人平成医療学園 常任理事(大学担当理事) /
宝塚医療大学 統括長・保健医療学部 教授

質疑応答

第8分科会

ICT を活用した遠隔授業について考える

分科会概要：

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、我が国の大学教育は大きく変様した。特に、対面授業から ICT を活用した遠隔授業へと移行し、オンライン型授業やオンデマンド型授業が急速に普及した。講義担当者は、これまでの対面講義とは異なる対応（著作権、レポート、小テスト、定期テストなど）が求められ、また、各大学で使用している ICT アプリ（Teams®、Classroom®、Slack®、manaba®など）や対応が異なることから様々な課題が見えてきた。本分科会では、遠隔授業に関するメリット、デメリット、および、各種課題に対する対応についてご紹介いただく。参加者の皆さんの活用事例などもご紹介いただきながら今後の遠隔授業について議論したい。

<プログラム>

- | | | | | | |
|-------|-------|----------|----------|-------|-----|
| 10:00 | 趣旨説明 | 京都薬科大学 | 生命薬科学系 | 小田 真隆 | 教授 |
| 10:10 | 講演 1. | 京都薬科大学 | 一般教育分野 | 坂本 尚志 | 准教授 |
| 10:50 | 講演 2. | 京都光華女子大学 | キャリア形成学部 | 阿部 一晴 | 教授 |
| 11:30 | 講演 3. | 龍谷大学 | 国際学部 | 瀧本 真人 | 教授 |

第9分科会

若手研究者からみた「大学改革」

——アフターコロナの時代を見据えて——

分科会概要：

1990年代以降、文部科学省が主導する「大学改革」が急速に進められてきた。現在も変化の途上にある大学の教育現場において、「これから大学はどうなっていくのか」を最も危機感を持って受け止めざるを得ないのが、いわゆる「若手」と呼ばれる30-40代の大学教員・研究者である。この傾向は2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症の拡大によってオンライン授業や対面授業とのハイブリッド等が「新常態」化していく中、より強くなってきている。それはこの世代が、大学改革や大学教育の最前線で、内外から新しい状況への対応や実践を最も期待される層だからである。

そこで本分科会では、昨今のコロナ禍の影響を踏まえ、この世代にとっての今後の大学のあり方や大学教育のより望ましい方向性について、批判的に検討することを通じ、アフターコロナの「大学改革」について考えていく。そしてそれにより、アフターコロナの時代に社会から求められる、大学の理念や存在意義についても問いかけていきたい。

<プログラム>

10:00 趣旨説明 佛教大学 歴史学部 准教授 水田 大紀 氏

10:05 講演 1. 千葉大学 国際教養学部 講師 崎山 直樹 氏

10:40 講演 2. 大阪成蹊大学 経営学部 准教授 成瀬 尚志 氏

11:15 講演 3. 北海道教育大学 教育学部旭川校 准教授 古川 雄嗣 氏

11:45 休憩

11:50 質疑応答

第10分科会

私たちの最新教育改革ビジョン

—近年の新設大学・学部の教育理念・3つのポリシーから学ぶべきこと

分科会概要：

高等教育機関における最先端の教育改革ビジョンは、「大学・短大や学部・学科の新設」という形で具体的に表れる。そこで本分科会では、いくつかの代表的な新設大学・学部の事例を当事者からご報告いただき、それぞれのチャレンジを切り口にして、これからの高等教育が目指すべき方向性を探る。

職業教育と教養教育をいかにバランスよく配置するか、専門的な基礎教育をいかに実現するかなどの諸点が論点となろう。

教学改革の最前線でカリキュラム設計に取り組む皆さんにご参加いただきたい。

<プログラム>14:00~17:00

◇ 趣旨説明 (5分)

◇ 事例報告 (100分)

➤ 14:05~14:35 滋賀大学 データサイエンス学部 教授 齋藤 邦彦 氏

➤ 14:40~15:10 京都女子大学 法学部 教授 南野 佳代 氏

➤ 15:15~15:45 国際ファッション専門職大学 副学長 田中 雅一 氏

◇ 休憩 (15分)

◇ 16:00~16:55 ディスカッション&質疑応答

◇ まとめ (5分)

第11分科会

新しい生活様式における保育士養成

—演習科目「子育て支援」を中心に—

分科会概要：

新しい生活様式における保育士養成の演習科目「子育て支援」をどのように行うかということを考えていく。「子育て支援」では「保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する」「保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する」を学ぶことになっている。そこで、まず「子育て支援」に関する各話題提供者の研究について発表する。次に、新しい生活様式における「子育て支援」の教育について意見交換し、理解を深めたい。

<プログラム>

- 14:00~14:10 趣旨説明 大谷大学教育学部 教授 安田 誠人 氏
- 14:10~14:25 講演1 関西福祉科学大学教育学部 教授 新川 泰弘 氏
- 14:25~14:40 講演2 びわこ学院大学教育福祉学部 専任講師 榎本（平田）祐子 氏
- 14:40~14:50 休憩
- 14:50~15:05 講演3 東京家政大学家政学部 准教授 武田（六角）洋子 氏
- 15:05~15:20 講演4 大阪樟蔭女子大学児童教育学部 専任講師 西井 典子 氏
- 15:20~15:30 休憩
- 15:30~15:45 講演5 関西福祉科学大学教育学部 教授 新川 泰弘 氏
- 15:45~16:00 講演6 びわこ学院大学教育福祉学部 専任講師 榎本（平田）祐子 氏
- 16:00~16:10 休憩
- 16:10~16:25 講演7 東京家政大学家政学部 准教授 武田（六角）洋子 氏
- 16:25~16:40 講演8 大阪樟蔭女子大学児童教育学部 専任講師 西井 典子 氏
- 16:40~16:45 休憩
- 16:45~17:00 意見交換とまとめ

※なお時間は目安であり、若干変更になる場合があります。